

陳情第 7 号

学校給食に関する陳情書

令和3年11月26日

長崎市議会議長

井上 重久 様

大淵 美里

## 学校給食に関する陳情

### 1 陳情の趣旨

私たちが日々食べる物は、人々の健康のために何よりも大切です。また安全・安心な食品は人にやさしいだけでなく、地球環境にもよいものです。学校給食は子どもたちの健康を担っています。心身ともに健康であるからこそ、学校での学び、そして未来への希望が持てるのです。学校給食を有機食材にすることで、市民の「食」と「環境保全」の意識を高め、医療費の削減にもつながります。そして、有機食材の安定した供給先を確保することができ、さらには地域の活性化につながる可能性もあります。

今の日本の食の状況は安心安全とは決して言えません。農薬大国である日本は、グリホサート、ネオニコチノイド系農薬などが生態系すべてに悪影響を及ぼし、人への深刻な影響の可能性を示す研究結果が次々と報告されており、海外では、予防原則を適用し使用を禁止する動向が強まっているにもかかわらず、世界と逆行しそれらの使用を緩和しています。全国の給食用パンを調べると、大半のサンプルから微量のグリホサートが検出されたという結果も出ています。遺伝子組み換え食品などの問題もあります。他県や海外諸国では、いち早く学校給食を有機食材に切り替えているところがあります。なぜなら最も影響を受けるのは子どもたちだからです。

また、2021年5月に、農林水産省は、化学肥料や農薬を使用しない有機農業の面積を2050年までに国内の農地の25%にあたる100万ヘクタールまで拡大する目標を設けました。これは国内の有機農業を40倍以上に増やすこととなります。有機農業は、温室効果ガスの排出量や生物多様性への影響が少ないとされているためです。干ばつ、洪水などの気候変動により絶滅する生物は増えるばかりです。急速に生物の多様性が失われていく中で、有機農業によってその流れを抑えられる可能性があります。有機農業は、二酸化炭素を地中に取り込む上で有効であることがすでに世界的にも認められており、土を蘇らせる農業により、土壌にいる微生物を守ることによって有機物を増やし、気候変動対策をする試みがすでに世界で進みつつあります。また、農地が化学肥料や農薬で劣化しては、美味しくて栄養価の高い農産物はできません。そして土地や水、植物、動物、魚、虫などが農薬や化学肥料、また人間が作り出している薬品や添加物等で汚染されると、食物連鎖の頂点に立つ人間に蓄積されるのです。

第2の地球はありません。

子どもたちの心身、市民の健康、そして地球を守るため、今の長崎を変えることは可能です。世界の平和を願う長崎で、有機食材での給食をぜひ実現していただきたいと思います。

## 2 陳情項目

子どもと地球の未来を守るために、学校給食の米やパン、調味料すべて添加物のない食材、有機食材での提供を実現してください。